

新型コロナを踏まえた新たな国際教育交流 に向けて

2021/6/25

文部科学省高等教育局主任大学改革官・国際企画室長
佐藤 邦明



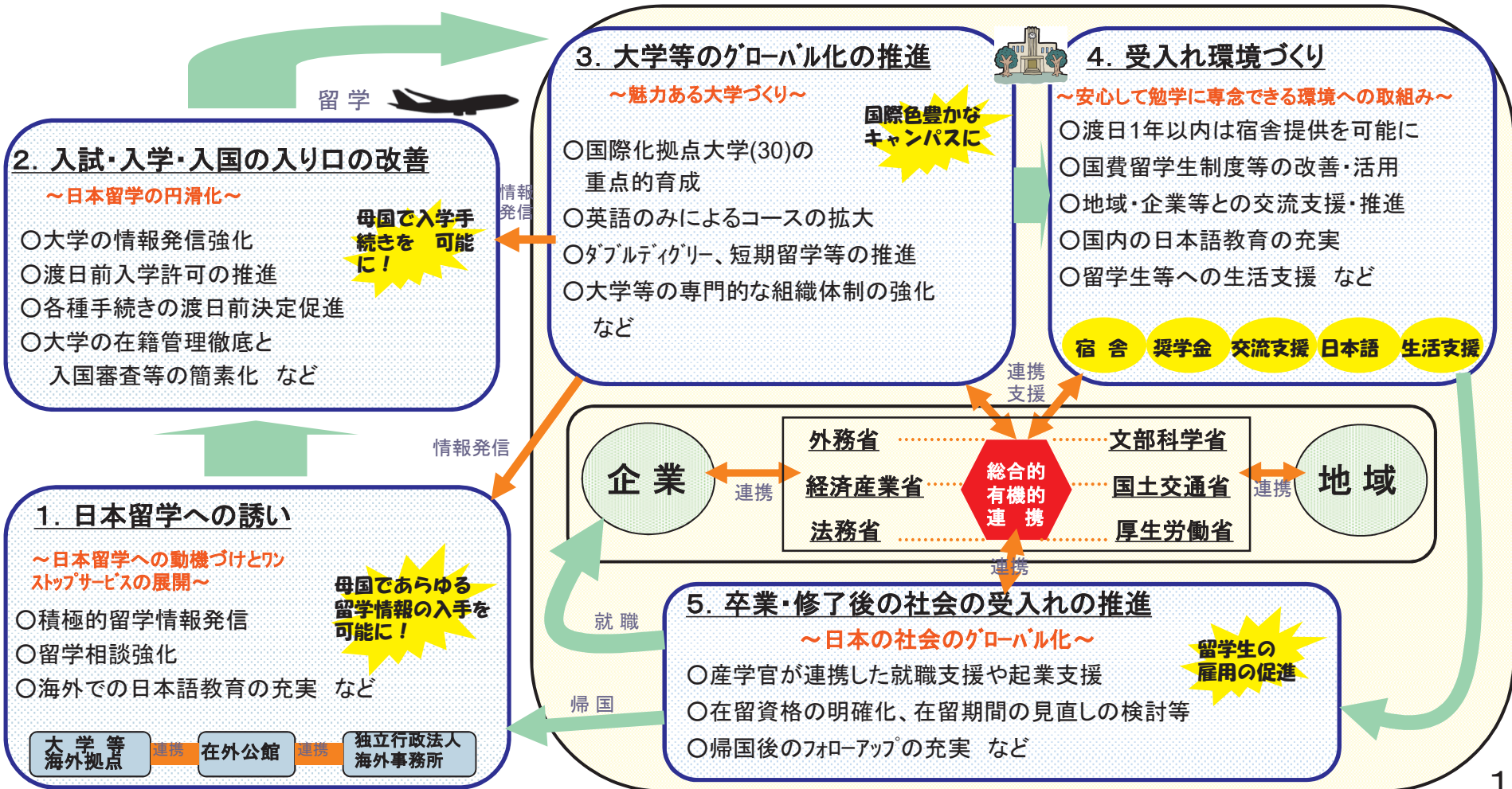
文部科学省

「留学生30万人計画」骨子の概要

2008年7月策定

ポイント

- ☆ 「グローバル戦略」展開の一環として2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。
- ☆ 大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得。
- ☆ 関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進



「留学生30万人計画」検証結果報告書の取りまとめについて

1. 経緯

- ◆ 2008年、関係省庁は、2020年を目途に30万人の外国人留学生受入れを目指す「留学生30万人計画」を策定し、各種施策を推進。
- ◆ 2020年7月の「成長戦略フォローアップ」において、「『留学生30万人計画』に関する検証を実施し、その結果を踏まえ、留学生受入れに関する今後の施策について検討を行い、2020年度中に結論を得る。」とされたことから、「留学生30万人計画」関係省庁会議において検証作業を開始。
- ◆ 2021年3月31日、関係省庁において、報告書を取りまとめ。

※関係省庁：文部科学省、外務省、法務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、観光庁（2009年～）

2. 検証結果（概要）

- 外国人留学生数は、目途の2020年よりも1年早く、2019年5月時点で31万人に。
- 高等教育段階での受入機関数も増加。日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ環境が充実。
- アジア諸国からの外国人留学生の出身国・地域が多様化。アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」の一環としての施策目的に沿った動向。
- 高等教育機関の卒業・修了者のうち国内就職者数は、約9千人から約2.3万人（約2.6倍）に増加。国内就職者の割合も約27%から約37%に上昇。高度人材の国内定着が図られつつあるが、近年その伸びは鈍化。
- これまでの施策による取組は、海外の優秀な学生の日本留学への関心を高め、多くの学生が実際に来日・留学し、日本社会へ定着すること等により我が国の社会・経済の発展に寄与し、一定の成果。
- 他方、高度人材の国内定着の促進や効果的・効率的な情報発信、日本語教育の充実等、更なる向上に向けて工夫や強化が必要なものに加え、適切な在籍管理の徹底や技術流出防止対策の強化、新型コロナウイルス感染症の影響など、新たな課題や状況変化も生じている。

「留学生30万人計画」検証結果報告書の取りまとめについて

3. 今後の施策の方向性

- 高等教育全体として対面授業と遠隔・オンライン教育を効果的に組み合わせたハイブリッド型教育が進展する中で、留学に関してもこのような動きを踏まえた新たな工夫が必要。
- 遠隔・オンラインの利点も活かしつつ、優秀な外国人留学生を実際に日本に受入れ、日本社会の中で日本人学生とともに教育を受ける機会を提供する「実留学」を引き続き推進していくことが重要。
- さらに、我が国の技術的優位性を確保・維持する観点等を踏まえ、大学等における技術流出防止対策の強化とのバランスを図っていくことが重要。
- ポスト「留学生30万人計画」の留学生施策は、留学生交流の入り口部分である受入数を重視するこれまでの視点から、我が国において質の高い教育を受けた優秀な外国人留学生の日本社会への定着度の向上や帰国した外国人留学生の親日派・知日派としての活用及びそのネットワーク強化による諸外国との友好関係の強化等、より出口（アウトカム）に着目して受入れの質の向上を図る視点に転換し、引き続き関係省庁が連携・協力しながら施策の深化を図るべき。
- 多様な文化を尊重した活力ある共生社会を実現し、我が国がグローバル社会の一員となるためには、質の高い外国人留学生の受入れと合わせ、日本人学生の海外留学の促進も含めて、学生の派遣・受入の両面で質の高い国際流動性を高めていくことが重要。そのための具体的な取組内容を引き続き検討していくべき。

新型コロナウイルス感染症による留学生交流への影響

INBOUND -日本への留学生-



OUTBOUND -日本からの留学生-



現在の状況

- 外国人留学生の新規入国が順次再開



**感染症再拡大を受けて一時停止、
当分の間「特段の事情」を除き措置を継続**

- 入国時の防疫対策について、更に強化

- 2020年11月以降、海外大学の**学位取得を目指す**日本人留学生について、学生が渡航先の防疫措置を確認していること等を条件としてJASSO奨学金支援を再開。

- 2021年6月通知で、大学間交流協定に基づく1年間（実際の派遣期間9か月以上）の留学プログラム再開について、大学等における学生の安全確保等の留意事項を周知。同通知にて、「**トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム**」や**大学間交流協定プログラム等による留学**についても8月渡航分から支援を再開。

- 2021年6月15日以降、「**留学予定者ワクチン接種支援事業**」を開始し、対象者に対し、大学拠点接種の枠組みの中で接種を支援し、必要に応じて英語版接種記録保有証明を発行。



海外留学を予定する学生等への新型コロナワクチン接種について（依頼）

【重要】

海外留学を予定する学生に向けた、新型コロナワクチン接種と英語版ワクチン接種記録保有証明についての新しい仕組みを構築しましたので、周知をお願いするものです。

事務連絡

令和3年6月15日

各国公立大学
各国公立高等専門学校

担当課御中

文部科学省高等教育局
学生・留学生課留学生交流室

海外留学を予定する学生等への新型コロナワクチン接種について（依頼）

この度、留学先でワクチン接種が必要とされている海外留学予定者に対して、大学拠点接種の中で接種を受けられるよう支援するとともに、接種完了後には、留学先の大学に提示していただけるよう、英語のワクチン接種記録保有証明を文部科学大臣名で特別に発行するため、「留学予定者ワクチン接種支援事業」を開始しましたのでお知らせします。

本事業は、渡航が今夏に迫り、留学先でワクチン接種が必要とされている方がワクチン接種を理由に渡航を断念し、人生における貴重なチャンスを失うことがないよう政府として対応するために設けたものであることから、まずはこのような時間的な切迫性やワクチン接種が求められているという重大性のある方々に優先的に対応します。

大学等におかれましては、自大学でワクチン接種を実施する予定がある場合には、適切に学生からの相談に乗っていただき、そうでない場合には、対象として該当する可能性のある留学予定の学生に対して周知をお願いします。

ワクチン接種の申請にあたっての詳細な情報は下記の文部科学省のホームページに掲載します。また、掲載情報については、今後も随時更新します。

・文部科学省HP「留学予定者ワクチン接種支援事業」を開始しました。：
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_01534.html

<本事務連絡担当連絡先>

(本事業の詳細について)

大学等ワクチン接種加速化検討チーム 留学生班

代表：03-5253-4111（内線：4977）

MAIL: ryugaku-renraku@mext.go.jp



ニューノーマルにおける大学の国際化促進フォーラム形成支援（仮）

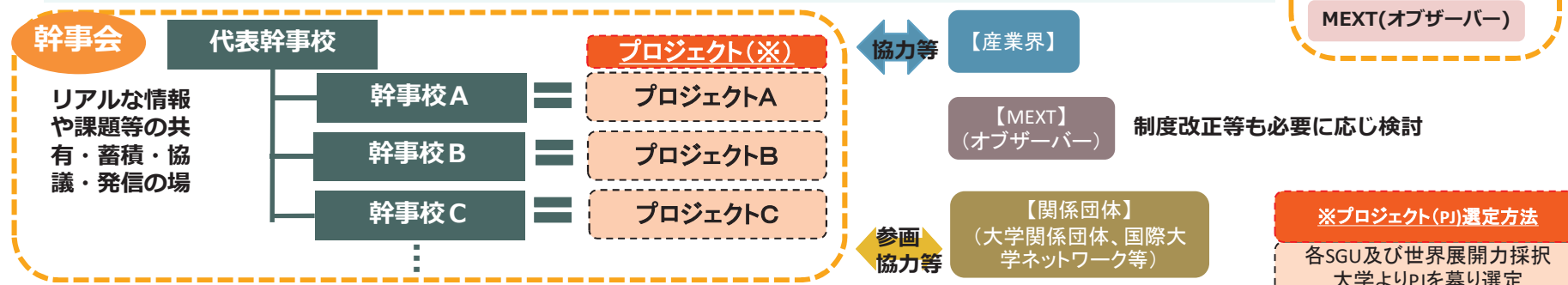
令和3年度SGU予算内
実施 90百万円



- 背景**
- 我が国の高等教育における国際化施策はグローバル30からGGJ、そしてSGUと、弛むことなく12年が経過。SGUは事業開始7年目を終える中、各採択大学の構想の下、国際対応力強化や国際通用性向上の取組みが多様な形で進展。
 - 一方、新型コロナウイルス感染症の世界的発生により国境を越えた移動が制限される中、オンラインを活用した教育・交流が急速に進展。
 - 事業残り3年となる今、国際化を牽引する大学群の多様な実績の横展開を強化する環境を整備することによりニューノーマルに向けた我が国の高等教育の更なる国際通用性・競争力の強化を図る。
- 目的**
- ニューノーマルに向けてSGU採択大学を中心に展開力採択校・希望する大学等による「国際化促進フォーラム」を形成。
 - SGU事業終了後（R6～）は、自律的運営組織へと発展させることを前提とする。
- 概要**

● 「国際化促進フォーラム（イメージ）」

- 「幹事校」の役割**
- **代表幹事校**：フォーラムの牽引及び運営。
(SGU大学)
 - ・ 幹事校等と連携しフォーラムの取組が、我が国の高等教育の国際化促進と国際競争力強化に向けた取組みに繋がるよう方向性を示し、参加する大学を束ねる。
 - ・ 各プロジェクトと連携したフォーラム運営、会議・シンポジウム等の開催、広報、成果物の発信、各種調査、予算執行等
 - **幹事校**：プロジェクト課題を参画大学等（※）と共に取組み、その成果を還元・発信。
(SGU大学を中心に展開力大学が中核となるPJも想定)
 - ・ 代表幹事校（フォーラムの運営等）をサポートする。
- ※参加大学等：SGU大学、展開力大学、希望大学、関係団体



プロジェクト例

- ☑ **プラットフォーム事業「Japan Virtual Campus（仮）」の構築・運用**
- ☑ オンライン教育の課題（ハード、ソフト）の解決策に向けた取組み
- ☑ 今後（事業終了後）を見据えた海外拠点・オフィスの活用
- ☑ 学歴証明のデジタル化
- ☑ SGU学生・職員によるインターカレッジ組織の形成（例：インカレによる国際交流プログラム設計、高校生の留学意欲喚起の取組み支援）
- ☑ オンラインを活用した国際教育Pの成果・普及（例：COIL型教育）
- ☑ 国際交流プログラム評価の開発（例：BEVI等の普及メニュー）
- ☑ 我が国の高等教育のブランド形成
- ☑ ジョイント・ディグリーの促進（ピア・レビューによる質向上等）

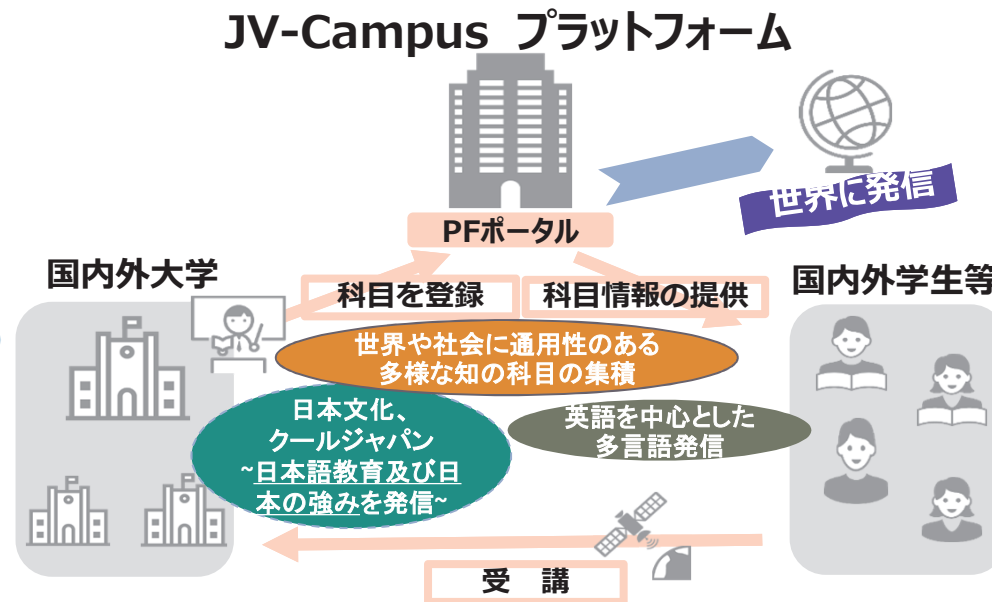
●オンライン国際教育プラットフォーム事業 「Japan Virtual Campus (仮称)」 イメージ

「日本発の国内外大学で構成するコンソーシアムによるオンライン科目の発信」

背景目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症拡大の中で、教育のオンライン化が世界的に一挙に進展。留学生及び研究者の流れも大きな変化の見られる様相。 ○ 今後は、国際教育においても、リアルの教育・交流の価値を高める、オンラインを活用した教育・交流の可能性を如何に引出すかが重要。 ○ ニューノーマルにおける我が国の高等教育の国際教育・交流の環境として、オンライン教育を活用した留学に繋がる環境整備を行う。 ○ これにより、優秀な外国人留学生の確保、日本人留学生の新たな留学環境の整備等、国際競争力ある教育環境に貢献。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 国際競争力ある教育をオンラインで国内外に開放できるプラットフォームを構築し、自大学で開講できない分野や内容の教育を提供しつつ、海外には日本の強みと魅力ある教育を提供。国際競争力のあるハイブリッド教育にも繋がる環境を整備 ☑ 英語による授業から日本語教育及び日本の強みを発信する授業等まで、多様な授業をプラットフォームが集積し、多様なスキームで提供するシステム（※）を構築

※スキームのイメージ

- 個別協定を結ぶことなく**単位互換が可能な仕組み**
- 単位認定は伴わないが**履修証明を行う仕組み**
- 一定のスキームに
応じる大学同士が
活用する単位互換
制度等
- 他大学オンデマ
ンド講義を自大学
科目として扱える
仕組み



開放性ある多様なスキーム

- ① 世界・社会に開かれた**無料講座**
- ② **履修証明科目**【サーティフェイト】(有料・無料)
- ③ **単位認定科目**【マイクロクレデンシャル】(")
- ④ **学位取得に繋がる科目群** 等

多様なオンライン形態

- ① オンデマンド講義
- ② 双方向のオンライン講義
- ③ オンライン共同演習 等

期待される効果

- **優秀な外国人留学生確保、ニューノーマルな留学環境整備に貢献**
- 自大学の強みを国内外にアピールし**ブランド形成とインバウンドに寄与**
- 自大学にない科目を享受。**アウトバウンドや大学全体の国際的価値の向上、教育コストの効率化による経営強化**
- グローバルな視点で**地域社会をリードする人材の創生、リカレント（職業スキル）教育への貢献を加速**。